

III-2 実施計画書骨子（案）総括表

実施計画書目次		記述内容の骨子（案）	備考
1.	はじめに	事業の背景（釧路湿原の価値と現状等）を総括的に、かつ事業実施区域についても同様に記述し、事業の動機付けへのストーリーを述べる。	
2.	事業の実施区域	事業の実施区域を図示する。	提言で挙げられた5河川を踏まえ、試験を兼ねた先行河川として茅沼地区を抽出
3.	現状と課題		
3-1	茅沼地区の現状	事業対象区域及び近傍の現状について、過去からの変遷経緯とともに、主に自然環境の変化とその要因となった人為改変の観点から記述する。	
3-2	課題と要因の抽出、並びに課題解決に向けての施策	前項で記述した現状分析から具体化した課題を導入し、その要因を把握した上で、課題解決へ向けての施策の方向付けを記述する。	
4.	事業の目的と目標		
4-1	事業の目的	事業の目的について、全体構想を踏まえて記述する。	河川本来のダイナミズムの回復・復元 = 蛇行する河川の復元（旧川復元） 河畔林などの多様な環境を復元・修復 = 河畔林の保全・復元
4-2	事業の目標設定	本事業で期待する効果について、その目標設定を具体的に記述する。	期待する4つの効果 = 湿原景観の回復、湿原植生の再生、生物生育生息環境の復元、土砂流入の抑制
5.	事業の実施内容		
5-1	茅沼地区旧川復元計画の概要	本事業の基本的考え方、社会的配慮事項を示す。また、実施する主たる項目を抽出し、その意図、具体的内容を記述すると共に、各項目の実施位置、改変範囲等の情報を平面図に示す。	主たる実施項目 = 旧河道復元、直線河道埋め戻し、右岸残土撤去、河畔林復元
5-2	旧川復元河道計画		
5-2-1	復元河道計画の設定	復元河道断面、法線、縦断形の設定（昔の河道の再現）の考え方を述べると共に、復元河道の定期図を示す。	周辺土地利用による制約条件や、「昔の河道」の推定方法など
5-2-2	河岸保護対策	河岸保護の必要性を述べ、具体的対策箇所を例示する。	一般的に明白な水衝箇所や、JR等重要構造物
5-2-3	上下流取り付け工	復元河道の上下流の取り付け工について、その形状、レイアウト等を示す。	
5-2-4	現直線河道部の処理	現直線河道部の処理の考え方、実際の処理（=埋め戻し区間と河跡湖化区間の設定）について記述する。	埋め戻し・河跡湖化の目的・必要性
5-2-5	右岸残土撤去	直線河道部右岸残土撤去に関し目的と除去範囲、工事量（土量）について記述する。	直線化当時の経緯、現状（形状、植生）
5-3	その他河川環境の保全・再生のために実施する対策	湿原植生の再生に対する早期の効果発現と増強に対する対策として、今後実施を検討していく対策等を取り上げ、その概要と必要性を記述する。	中島部の伐採、客土撤去、並びに湿原植生の移植

実施計画書目次	記述内容の骨子(案)	備考
5-4 施工計画		
5-4-1 全体施工工程(旧川切り替え手順)	施工内容と全体工程(旧川切り替え手順)について図解する。	
5-4-2 各工種の概要	旧川河道堀削、右岸残土撤去、直線河道部埋戻しの各工種について、その概要を示す。	
5-4-3 環境への配慮事項	施工にあたっての環境への配慮事項を抽出し、記述する。	各工種、対象別に一覧表などにまとめる。
5-5 地域協働と環境教育	意見交換会、説明会、自然観察会など地域のコンセンサスを形成するための各種催事や、環境学習の場の提供など、利活用の計画について記述する。	計画未確定の事項であるため、全体構想を踏まえた記述とする。
6. 事業の実施により期待される効果の予測評価	事業の実施により期待される4つの効果について、予測評価の考え方及びその結果を記述する。	
6-1 予測・評価の考え方	予測評価の方法と評価項目について記述・図解する。	科学的根拠に基づいた予測評価方法とする。
6-2 湿原景観の回復	・フォトモニタージュによる旧川復元前後の景観を対比し、湿原らしい景観が復元されることを示す。 ・ベースとなる河川の物理環境(河道形状、勾配、流速、河床材料等)を合わせて示す。 ・リファレンスサイトと対比させて示す。	主に、短期的な評価として取り扱う。
6-3 生物生育生息環境の保全	・河道の物理環境、河床形態の予測、魚類の餌環境調査などを指標とし、魚類の生育生息環境を評価する。 ・リファレンスサイトと対比させて示す。	主に、短期的な評価として取り扱う。
6-4 湿原植生の再生	・埋土種子、土質、氾濫面積、冠水頻度、地下水位変化等の調査、予測結果から、旧川復元後の湿地性植物の応答を推定し、評価する。(中島の伐採、客土撤去を行う場合は、その条件でも予測評価する。)	氾濫面積、冠水頻度、地下水位変化等の物理的指標は短期的評価として、植生応答は長期的評価として取り扱う。
6-5 土砂流出の抑制	・復元前後における復元区間下流への土砂流出量の解析予測結果から、土砂流出抑制量の試算結果を示す。	主に、短期的な評価として取り扱う。
6-6 モニタリングによる検証	・各項目に対して期待される効果の予測評価結果を仮説とし、モニタリングによる具体的検証方法について記述する。	
6-7 順応的管理手法の適用について	・指標設定 予測評価 モニタリング 検証 修正・再予測評価 再モニタリング 検証のループを、本実施計画に対する仮説検証の流れに具体化し、その考え方を整理する。	
7. 事業の実施者と協議会		
7-1 事業の実施者及びその属する協議会	事業の実施者を明示し、その属する協議会、関連協働する機関・組織と実施体制について、相互の関係を整理して示す。	
7-2 関連・協働する組織と実施体制		